

長野県松川村図書館

久々に北海道でも東京でもない図書館を訪れました。
2016年、まだ東京で生活していた時以来9年ぶりの訪問です。

松川村図書館へ行く前に、塩尻市立図書館「えんぱーく」に前回は今回も訪れているのですが、図書館業界ではもはや聖地のような館であり、松本方面へ行かれる機会のある方は必ず訪れていただきたいです。図書館の運営や管理、地域との連携などあらゆる面で学ぶことができます。北海道へ引っ越して9年ぶりの訪問は、図書館への考え方や感覚が変わった私には改めて学習することができました。なぜ文学全集があんなに貸し出されるのか？など。

札幌から目的地松川村図書館へ行くには、まず松本に向かわないと行けません。夏場、札幌丘珠空港から松本までの1時間20分ほどのフライトが1日1往復就航しているので、早々にチケットを確保しました。信州松本空港から松本駅までバスで移動して、松本駅からJR大糸線に乗って42分。ここで注意しないと行けないのは、目的地信濃松川駅はSuicaなどICカードで下車できません。私は何も知らず松本駅からSuicaで乗車してしまい、信濃松川駅の駅員に証明書を発行してもらい、松本に近い穂高駅で精算してくれと言われました。

北海道では、小樽から余市方面とか使用できない区間がたくさんあるのは知っていましたが、長野県でもこのような区間があるのは知りませんでした。

駅から徒歩10分ほどで松川村図書館に到着します。松川村多目的交流センター「すずの音ホール」内の複合施設です。

松川村ってどのような村なのでしょう？

長野県中部の松本市から26キロほど北へ。松川村の南には平成の大合併で誕生した安曇野市があります。松川村も合併するか議論したようですが合併せず現在に至ります。人口は9700人ほど。あいにく村に書店はありません。北西部には北アルプスの山々。高瀬川など一級河川が流れています。訪問した7月は最高30度、最低20度。村は県外からの移住促進に頑張っています。育児支援がとても充実しているようですし、松川村図書館が気に入ったからと移住した方もいるそうです。図書館冥利に尽きます。米、りんごが主な産業です。

小中学校は1校ずつ。それぞれの学校には学校司書も常駐しており、公共図書館に所属している職員が担当しているそうです。

小学生達は下校になると図書館へみんな集まってくるので、図書館の入口にはランドセルを収納できる棚が。あいにく2度お邪魔して一度も子供達が押し寄せてランドセルだらけ

になる様子を見られていませんが、かなりの賑わいになるそうです。

蔵書は6万冊ほど。2009年、すずの音ホールの開館と共に現在の図書館が開館しました。

今回、道内の図書館を視察する上で参考にしたい図書館として訪れました。

素敵な個性がたくさん詰まった図書館です。図書館のスペースがそれほど広くないので、絵本と一般書の小説以外のカテゴリーは児童書と一般書を混在しています。そうすることで、子供達がもっと調べたいという時、自然と一般書の本に触れることができる。逆に大人がもっとわかりやすく書いた本を手に取りたいという時、児童書を見て、これわかりやすい！と借りていきます。大きな図書館ではセキュリティー的にも児童書と一般書を混在するのに抵抗あるかもしれませんが、小さな図書館で住民の顔もわかるような図書館ならではの運営でしょう。特に今まで問題は起きていないそうです。この配架方法は塩尻市立図書館の地区館広丘図書館でも採用しています。

NDCをベースにしながらも書店のような配架をしています。書店の料理、コンピューター、手芸、園芸など実用書コーナーと似たような並べ方も行っています。

コミックは寄贈ばかり。書架に背表紙で配架しても所蔵仕切れないということで、CDケースのような百均で売っているケースに本を入れることで所蔵冊数を増やせるという必殺技。コミックだけじゃなくCDなど他の資料でも活用しているアイデアはいただきです！

小説の書架では、5点以上発行している作家にはネームプレートをつけていますが、その作家の似顔絵と受賞歴などが記載されています。作家の似顔絵はスタッフが書いたお手製。このようなプレートは北見市中央図書館でも実施しています。

当館の特色としては村内にある安曇野ちひろ美術館との連携です。絵本作家・いわさきちひろ（1918-1974）の経歴や美術館についてはこちらをご覧ください。

<https://chihiro.jp>

図書館では、いわさきちひろに関する資料は徹底的に収集しコーナーも常設しています。

長野県が主催した第36回全国都市緑化信州フェア信州花フェスタ2019による企画では、特別企画展として「いわさきちひろ・花とあそびの庭」が開催されました。その様子はこちらをご覧ください。

<https://chihiro.jp/azumino/blog/31031/>

イベント終了後しばらくして、布で作られたちひろワールドの花は図書館に寄贈され、館内は今日もちひろデザインの花でいっぱいです。このような空間のある図書館は幸せです。

2025年7月訪問

加藤 重男